

# 第2回「農林業の知と技の拠点」 形成に係る外部検討委員会

## 資 料

- I 他県事例紹介 . . . . . 1
- II 山口県農林総合技術センターの立地環境等 . . . . . 2
- III 「農林業の知と技の拠点」形成の場所の視点 . . . 別冊

山口県農林水産部  
平成30年8月9日

## I 他県事例紹介（徳島県・奈良県・鹿児島県）

### 1 徳島県（H25）

#### ○農業大学校を農業試験場へ移転し、農大跡地に徳島大、企業参入

##### 【研究分野】

- ・企業連携によりICT栽培環境制御ハウス導入など園芸作物栽培技術の飛躍的改良
- ・地域（農家など）の声を、研究へ迅速に反映し技術改良

##### 【教育分野】

- ・研究員の教員兼務による講義レベル向上
- ・商品開発やマーケティング等が学べる6次産業ビジネスコースを再編
- ・就農前研修の充実（研究ほ場を活用した技術研修）

##### 【その他】

- ・徳島県と徳島大を中核に「産学官」共同で「とくしまアグリサイエンスゾーン」を形成（タキイ種苗㈱、Tファームいしい㈱）

### 2 奈良県（H28）

#### ○農業試験場を農業大学校敷地へ移転

##### 【教育分野】

- ・農業大学校に「農の担い手」コースと「食の担い手」コースを開設
- ・農の担い手コースは、農業研究開発センターに併設し、講義から実習まで高度な農業技術を修得
- ・食の担い手コースは、外食企業と連携し、オーベルジュを備え、調理技術とモチベーションの心を育成（㈱ひらまつが連携）

### 3 鹿児島県（H15～）

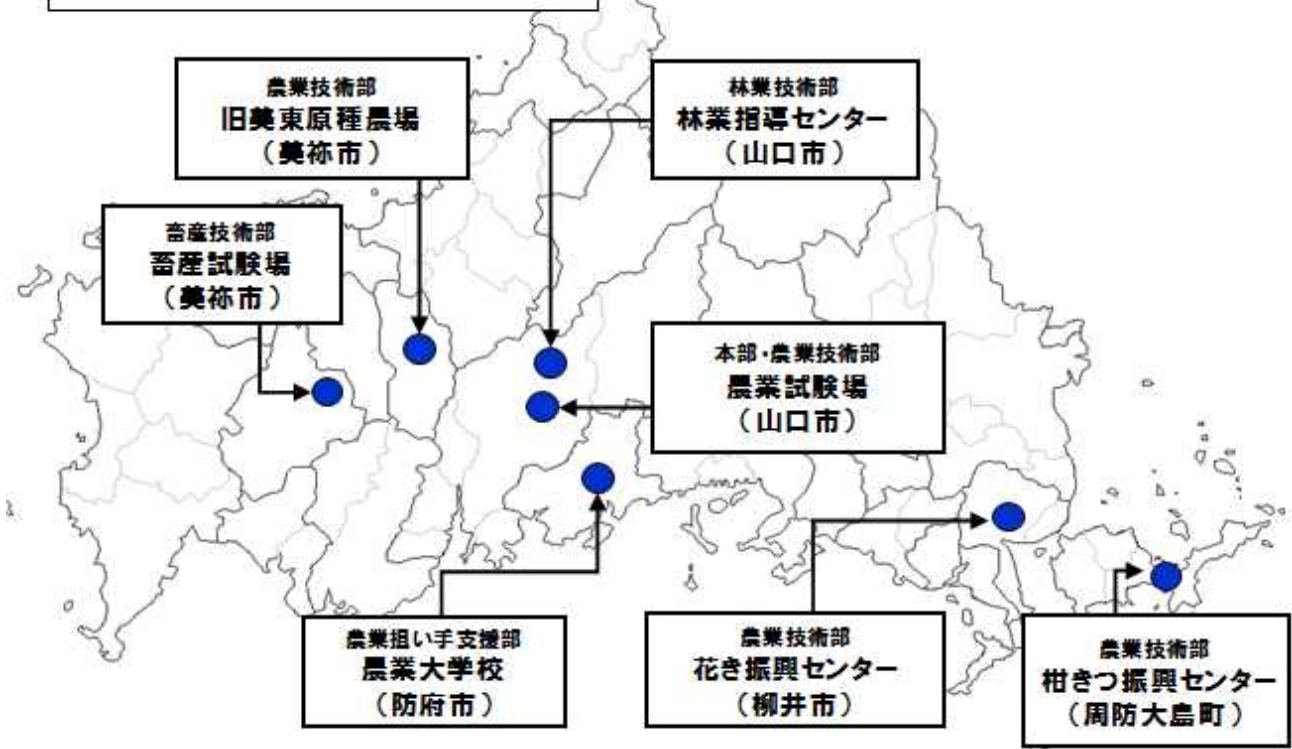
#### ○県内各地にある試験場の一部、農業大学校を新しい場所に移転

##### 【教育分野】

- ・農大に新たに「研究科」を設置（農大卒業生等を対象に、農試の研究者や設備等を活用した、先端技術など高度な人材育成を実施）
- ・最先端の試験研究成果を直接農大生に普及することで、就農・就業後、即戦力として活躍できる教育を実施

## Ⅱ 山口県農林総合技術センターの立地環境等

農林総合技術センター配置図



施設名称		所在地	敷地面積 (ha)	本館 建設時期
本部		山口市大内氷上一丁目1番1号	25.7	S43. 3
農業技術部	農業試験場	(山口市大内長野882)	(うち7.0)	S54
	旧美東原種農場	美祢市美東町大田5735-1	4.5	S51. 3
	柑きつ振興センター	周防大島町東安下庄安高1209-1	5.6	S47. 3
	花き振興センター	柳井市新庄500-1	3.4	H18. 3
	農業担い手支援部	農業大学校	防府市牟礼318	47.7
畜産技術部	畜産試験場	美祢市伊佐町河原1200	264.6	S55. 6
林業技術部	林業指導センター	山口市宮野上1768-1	7.8	S50. 3

## 本 部

- ・所在地 山口市大内氷上1丁目1番1号
- ・敷地面積 25.7ha (うち農場15.5ha)
- ・本館建設時期 S43.3月
- ・職員数 21人

### 【総務課】

- センター総務事務、予算管理、施設及び財産管理

### 【企画情報室】

- 農業・畜産・林業に関する研究・研修の有機的な連携を促進するとともに、より客観性の高い研究評価システムの充実や知的財産の戦略的活用を推進

### 【経営高度化研究室】

- 集落営農法人や中核経営体の経営高度化を目指し、農業・農村活性化方策、農業生産に関する新技術や加工部門導入に関する経営評価、地域資源等の評価・保全、鳥獣被害対策の研究、県産農林産物の栄養・食味・機能性成分等の評価や加工・保存流通技術の研究を総合的に実施



## 沿 革

- 1896年(明治29年)：山口県農事試験場として大内村御堀馬塚(現山口市大内)に発足
- 1944年(昭和19年)：現在地(山口市大内氷上)に移転
- 1949年(昭和24年)：山口県農業試験場に改組
- 1968年(昭和43年)：現在の本場庁舎を新築
- 2007年(平成19年)：農業試験場、農業大学校、畜産試験場、林業指導センターを統合し「山口県農林総合技術センター」に再編

### ※ 立地環境等【本部】

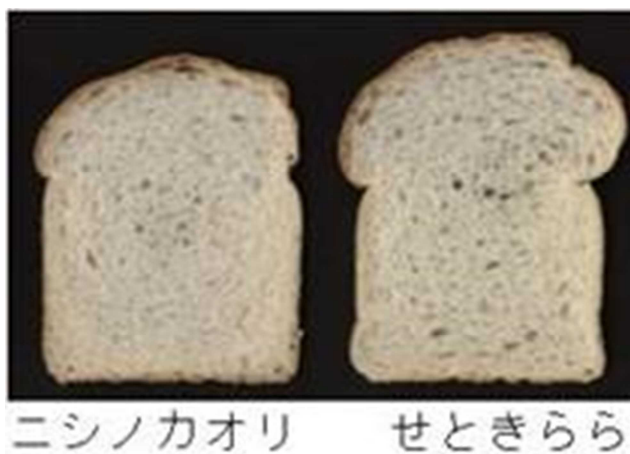
- 県内各地に施設が散在する農林総合技術センター全体の総務管理、企画調整部門を担当。また、経営高度化研究室は県全域の法人等が研究対象
- 周辺地域は都市化が進行

## 農業試験場（農業技術部）

- ・所在地等 本部と同一敷地内
- ・職員数 42人

### 【土地利用作物研究室】

- ・水稲・麦類・大豆に係る栽培技術の確立および育種開発
- ・水稲・麦類・大豆の奨励品種決定調査による品種選定



### 【園芸作物研究室（野菜栽培グループ）】

- ・ネギ及びイチゴの共同育種
- ・重点推進品目の高品質・安定生産技術の確立
- ・省力・軽作業化・省エネ技術の開発
- ・新作型、栽培体系の開発



### 【園芸作物研究室（果樹栽培グループ）】

- ・落葉果樹の省力・軽作業化技術の開発
  - ・落葉果樹の高品質・安定生産技術の開発
- (落葉果樹試験地)
- ・所在地 山口市大内長野882
  - ・本館建設時期 S54



## 【資源循環研究室】

(土壌環境グループ)

- ・作物の生育・栄養診断に基づいた栽培管理技術の確立
- ・作物の高品質・安定生産のための環境に配慮した施肥管理技術の確立
- ・農耕地における適切な土壌管理対策
- ・有機質資源利用技術の開発



(病害虫管理グループ)

- ・県内産地で問題となる病害虫の生態解明と効果的防除対策の確立
- ・環境に優しい防除技術（天敵や物理的防除など）の開発と実用化
- ・新たに侵入・発生した病害虫に対応した防除対策の確立
- ・新農薬の登録拡大と利用技術の開発

(発生予察グループ)

- ・病害虫発生状況調査
- ・病害虫発生予察情報の作成及び提供
- ・病害虫の診断、農薬に対する耐性菌・抵抗性害虫の検定
- ・農薬による危被害防止対策の推進



## ※ 立地環境等【農業試験場】

- 県内全域で栽培されている作物（水稲、麦、大豆、野菜、落葉果樹）が研究対象
- 発生予察グループの病害虫発生調査は県全域を対象

### 旧美東原種農場（農業技術部）

- ・所在地 美祢市美東町大田 5 7 3 5 - 1
  - ・敷地面積 4. 5 ha
  - ・本館建設時期 S 5 1. 3月
  - ・職員数 3人
- 水稲、麦、大豆の原原種、原種の生産配布を実施
- 原種生産概況（水稲 2 h a、麦 2 h a、大豆 1 h a）



### 沿 革

1953年(昭和28年)：大田原種農場設置

1976年(昭和51年)：美東原種農場

2007年(平成19年)：山口県農林総合技術センター農業技術部に再編

### ※ 立地環境等【旧美東原種農場】

- 水稲、麦、大豆の原原種、原種生産を実施しており、種子交雑等を回避する環境が不可欠
- そのため、周辺住民の原種生産に対する理解も必要

## 柑きつ振興センター（農業技術部）

- ・所在地 周防大島町東安下庄安高1209-1
- ・敷地面積 5.6ha
- ・本館建設時期 S47.3月
- ・職員数 7人

### ○柑きつの研究を実施

- ・柑きつ優良品種系統の育成選抜
- ・柑きつの高品質・安定生産技術の確立
- ・柑きつの長期貯蔵技術の開発
- ・柑きつで問題となる病害虫の生態解明と効果的防除対策の確立



## 沿革

1948年(昭和23年)：大島柑橘分場設置

1972年(昭和47年)：大島柑きつ試験場として大島柑橘分場から改組

2007年(平成19年)：山口県農林総合技術センター農業技術部に再編

### ※ 立地環境等【柑きつ振興センター】

○周防大島町は県内の柑きつ生産の大半を担う主産地

▼H29年産うんしゅうみかん面積

周防大島町：485ha（県全体720ha）【全農山口県本部調べ】

○柑きつに関する研究内容の早期普及のため、柑きつの栽培研修を定期的に開催（「ゆめほっぺ」栽培講座など）



## 花き振興センター（農業技術部）

- ・所在地 柳井市新庄500-1
- ・敷地面積 3.4ha
- ・本館建設時期 H18.3月
- ・職員数 10人

### ○花きの研究、実証展示、研修、育成品種の原種生産

- ・新品種や新技術の試験研究による生産現場への導入支援
- ・花き振興センターで開発したオリジナルユリとオリジナルリンドウの種苗供給
- ・花き産地、生産技術、流通、経営、消費など、花卉に関する情報収集、提供
- ・山口県花卉園芸組合連合会や山口県花卉園芸推進協議会の事務局としての県内の花卉園芸の振興



## 沿革

2006年(平成18年)：花き振興センターとして発足（フラワーランドに併設）

2007年(平成19年)：山口県農林総合技術センター農業技術部に再編

### ※ 立地環境等【花き振興センター】

- 花き栽培条件に適した柳井市を中心とする県東部地域での花き振興の拠点として、「やまぐちフラワーランド」と一体的に整備・運営

## 農業大学校（農業担い手支援部）

- ・所在地 防府市牟礼318
- ・敷地面積 47.7ha
- ・本館建設時期 S46.3月（耐震化済）
- ・職員数 34人

### 【教務課】、【園芸課】、【畜産課】、【就農・技術支援室】

#### ▽学生部門（2学年生）

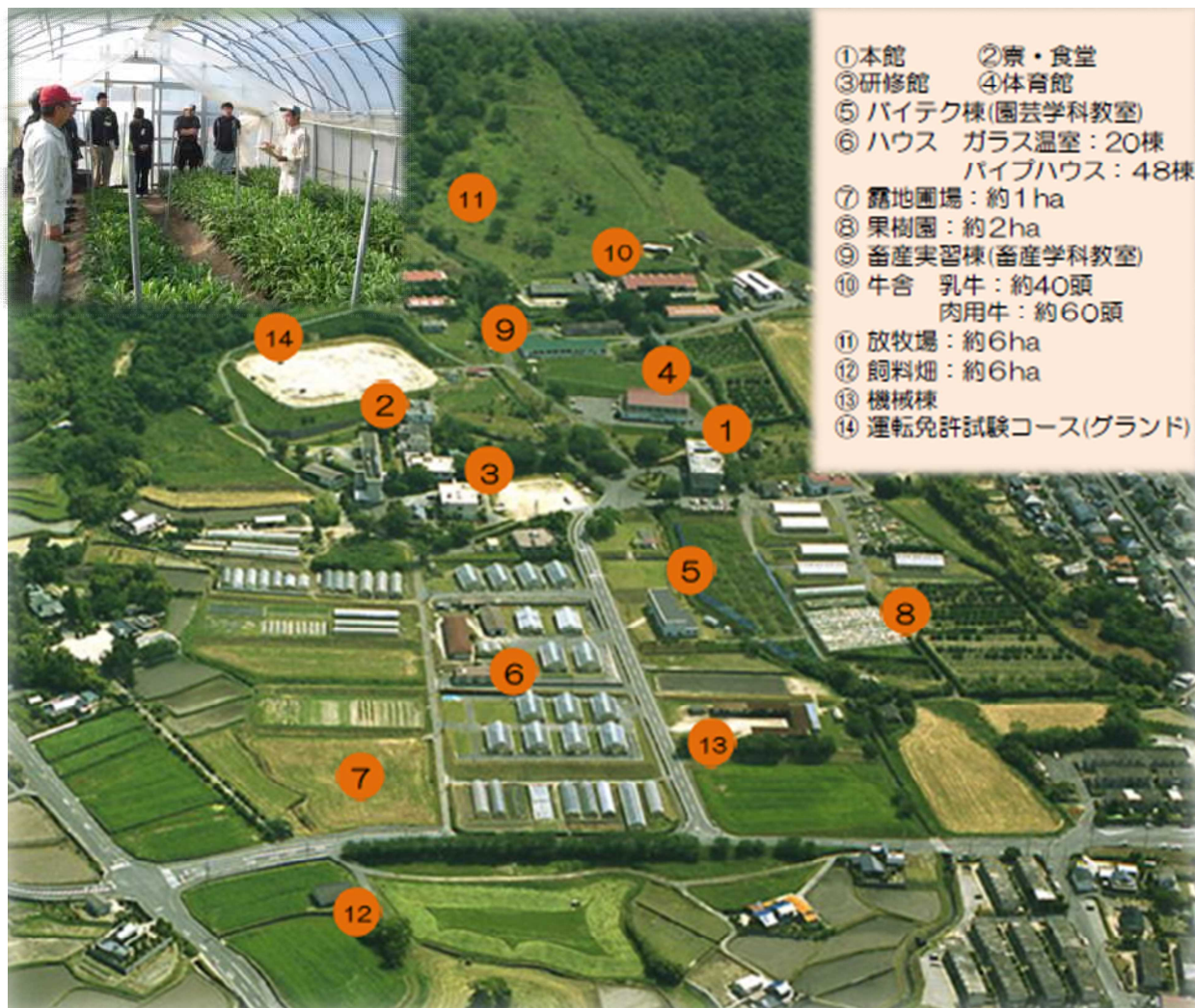
園芸学科（野菜、花き、果樹）定員25人

畜産学科（酪農、肉用牛）定員15人

#### ▽社会人研修部門

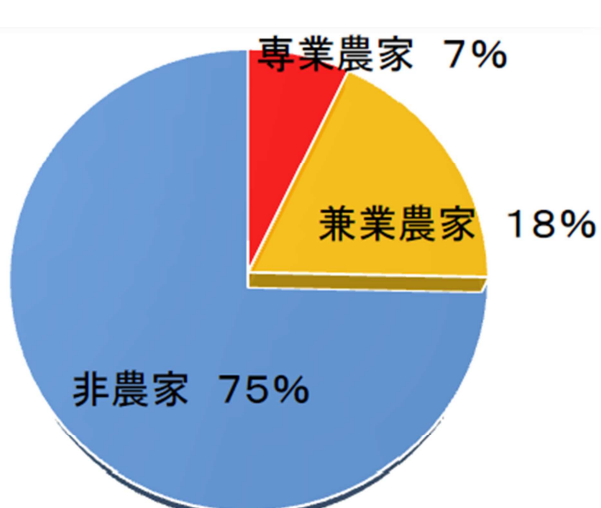
担い手養成研修生 24名

- 全寮制のもとで学生の実践教育を中心として、農業後継者や地域農業の振興を担う人材を育成
- 新規就農や法人就業に向けた社会人研修を実施し、就業後の技術指導などのフォローアップまで、一貫した農業担い手育成を支援

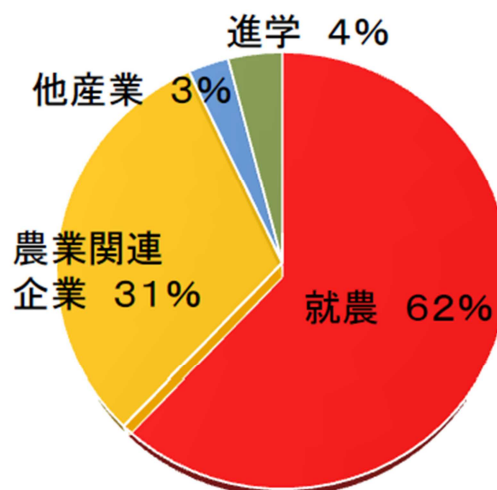


## [入学実績]

年度(平成)		25年	26年	27年	28年	29年
入学者数 (うち女子)		27人 (9人)	32人 (11人)	31人 (7人)	33人 (10人)	31人 (9人)
園芸	野菜	9	9	7	8	9
	花き	6	6	6	7	6
	果樹	7	5	5	7	6
畜産	酪農	2	5	7	6	7
	肉用牛	3	7	6	5	3



過去5年間の入学生の出身状況



過去5年間の卒業生の進路状況

### 沿革

1934年(昭和9年) : 山口県牟礼農民道場として発足

1984年(昭和59年) : 山口県立農業大学校に改組

2007年(平成19年) : 山口県農林総合技術センター農業研修部に再編

※専修学校化

2015年(平成27年) : 山口県農林総合技術センター農業担い手支援部に再編、

就農・技術支援室を設置

### ※ 立地環境等【農業大学校】

- 畜産学科が設置されており、広大な草地や放牧地の確保が必要
- 家畜の臭気や鳴き声などに対する周辺住民への配慮が必要
- 研修や担い手に関する会議では、参加者が県下全域から参集

## 畜産試験場（畜産技術部）

- ・所在地 美祢市伊佐町河原 1 2 0 0
- ・敷地面積 2 6 4 . 6 ha  
県有地 17.5ha(畑 10.9ha、田 0.5ha、その他 6.1ha)  
借地 247.1ha(原野等)
- ・家畜飼育  
肉用牛 240 頭、乳用牛 120 頭、豚 210 頭、鶏 1,700 羽
- ・本館建設時期 S 5 5 . 6 月
- ・職員数 3 6 人

### 【家畜改良研究室】、【放牧環境研究室】、【育成業務課】

- 黒毛和種の改良、見島牛、無角和種、オリジナル地鶏などの地域特産品開発や山口型放牧などの本県の特徴を生かした研究を実施
- 預託牛の保育や研修の実施



### 沿革：

- 1906年(明治39年)：設立
- 1980年(昭和55年)：山口県畜産試験場
- 2007年(平成19年)：山口県農林総合技術センター畜産技術部に再編

### ※ 立地環境等【畜産試験場】

- 広大な草地や放牧地の確保が必要
- 家畜の臭気や鳴き声などに対する地元への配慮が必要
- 防疫対策上、人や車両の立ち入りの制限が必要

## 林業指導センター（林業技術部）

- ・所在地 山口市宮野上1768-1
- ・敷地面積 7.8ha（うち実習林4.0ha）
- ・本館建設時期 S51.3月
- ・職員数 12人

### 【林業研究室】

（生産利用グループ）

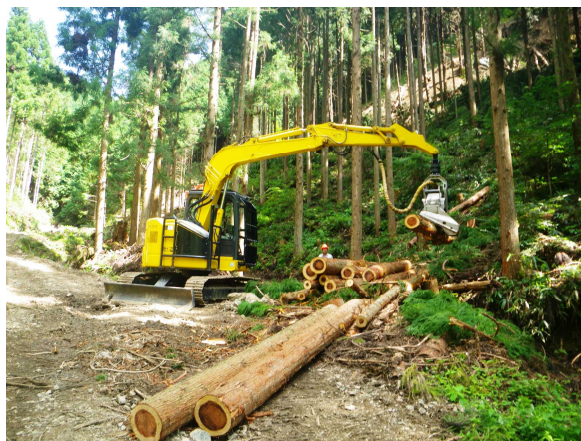
- ・木材・特用林産物、林業経営、林業機械化、森林バイオマスエネルギーの調査研究
- ・林業用種子の調整・発芽鑑定、林木育種園・実験実習林・育林技術展示林の管理

（森林研究グループ）

- ・森林の更新・保全、森林樹木の生理・生態、森林病虫害の調査研究

### 【林業研修室】

- ・林業の担い手育成と技術向上のための研修実施
- ・森林管理及び林業振興の指導者の育成と技能向上のための研修
- ・展示館・樹木見本園の管理



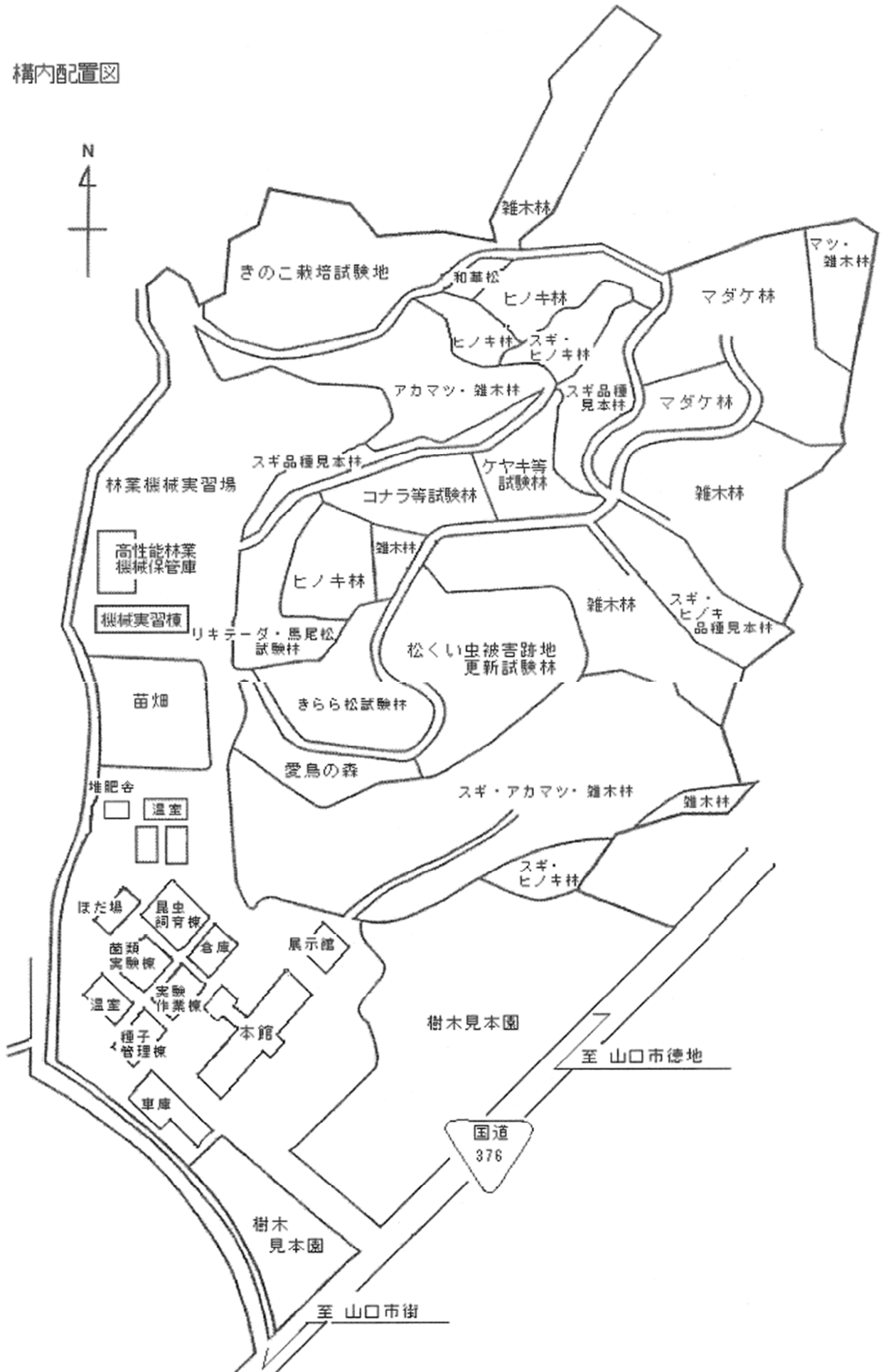
## 沿革

- 1949年(昭和24年)：山口県林業苗圃場として発足
- 1956年(昭和31年)：山口県林業試験場に改組
- 1976年(昭和51年)：山口県林業指導センターに改組
- 2007年(平成19年)：山口県農林総合技術センター林業技術部に再編

### ※ 立地環境等 【林業指導センター】

○林業研修を実施するため、一定規模の実習場の確保が必要

構内配置図



農林総合技術センター施設一覧

施設名称	所在地	敷地面積 (ha)	うち農場・ 実習林等	本館 建設時期	立地環境・産地背景等
本部	山口市大内	25.7	8.9	S43.3	○県内各地に施設が散在する農林総合技術センター全体の総務管理、企画調整部門を担当。また、経営高度化研究室は県全域の法人等が研究対象 ○周辺地域は都市化が進行
	農業試験場 (落葉果樹試験地)(山口市大内長野)	(7.0)	(6.6)	S54	○県内全域で栽培されている作物(水稲、麦、大豆、野菜、落葉果樹)が研究対象 ○発生予察グループの病害虫発生調査は県全域を対象
農業技術部	旧美東原種農場	4.5	3.8	S51.3	○水稲、麦、大豆の原原種、原種生産を実施しており、種子交雑等を回避する環境が不可欠 ○そのため、周辺住民の原種生産に対する理解も必要
	柑きつ振興センター 周防大島町東安下庄	5.6	4.4	S47.3	○周防大島町は県内の柑きつ生産の大半を担う主産地 ▼H29年産うんしゅうみかん面積 周防大島町:485ha(県全体720ha)【全農山口県本部調べ】
	花き振興センター 柳井市新庄	3.4	3.4	H18.3	○柑きつに関する研究内容の早期普及のため、柑きつの栽培研修を定期的に開催(「ゆめほっぺ」栽培講座など)
農業担い手支援部	農業大学校	47.7	農場12.2 放牧地15 山林16.8	S46.3	○花き栽培条件に適した柳井市を中心とする県東部地域での花き振興の拠点として、「やまぐちフラワーランド」と一体的に整備・運営
	畜産試験場	264.6	採草41 放牧96	S55.6	○畜産学科が設置されており、広大な草地や放牧地の確保が必要 ○家畜の臭気や鳴き声などに対する周辺住民への配慮が必要 ○研修や担い手に関する会議では、参加者が県下全域から参集
林業技術部	林業指導センター 山口市宮野上	7.8	3.9	S51.3	○広大な草地や放牧地の確保が必要 ○家畜の臭気や鳴き声などに対する地元への配慮が必要 ○防疫対策上、人や車両の立ち入りの制限が必要
					○林業研修を実施するため、一定規模の実習林の確保が必要